

問題リスト／各話の解説

タイトル	解説
<p>今回のワークでは、全8話中4話が、動物が主人公の『野原の物語』、残りの4話が、人間(およびロボット)が主人公の『街の物語』という構成になっています。そして、この二つの世界を、つなぐような存在として、第1話と最終話に鉄道が登場します。</p>	
第1話 (全13枚) 「黄色い大きな鳥」	キューという名前の鳥が主人公のお話です。野原に住む鳥が、町に赴き、そしてまた、野原に戻って来る、という、子どもにとって、親しみやすい往還話のスタイルをとっています。難しい文章表現は、ありませんが、「～くてたまらない」「恋しい」などの心理描写が多く登場します。
第2話 (全13枚) 「いつもふたりで」	二匹のウサギが主人公のお話です。プレゼントを何にしようか悩んで、小さな家出をしてしまうウサギを、友だちが探しに行く、という、やはり往還スタイルの物語です。不安な気持ちや迷い、などを表現している部分が多く、心の状況の読み取りが求められます。また、二人(二匹)の掛け合いの部分が多いので、話者を間違えやすい、という難しさがあります。
第3話 (全11枚) 「キューの友だち」	第1話の続編となるお話です。黄色い大きな鳥のキューのもとを訪れたカエルが、その背中によって、空を旅行します。「飛びうつる」「浮かびあがる」など、移動や動きの表現が、多く出てくるので、文脈などから、動作や状況を、できるだけ正しくイメージしてもらえればと思います。
第4話 (全11枚) 「ノッポ3号」	ノッポ3号というロボットが主人公のお話です。言葉(日本語)が未熟なノッポ3号の、かわいい失敗を、楽しんでもらえれば、と思いますが、それには、読み手の、かなり高度な日本語力が必要です。敢えて、間違いに触れることも、正しい言葉の気づきのために、大切だと考えています。後半、ノッポ3号は、言葉が上達するにつれ、人間らしく(?)なって行きます。人の心の存在にも、関心を持ってもらえれば、と思います。
第5話 (全13枚) 「放課後のおしゃべり」	ふたりの小学生のダイアログ(対話)で構成されたお話(シナリオ)です。会話の前に、簡単なト書きが提示されて、状況設定が補足されています。心理洞察能力の育成に重点を置いたものですが、感情表現の多様さについても、触れてほしいと思っています。できれば、会話練習ワークのように、読み合いの形で、進めていただければ、と思います。
第6話 (全11枚) 「リョウへの手紙」	父から息子へ宛てられた10通の手紙です。手紙文という特殊な文章形式を、読み解く力が求められます。それぞれの手紙のあいだに、取り交わされているはずの、リョウ(息子)からの手紙の内容も推測する必要があります。どちらから、どちらに送ったのか、などの視点の認識も重要です。また、この物語では「製鉄」がテーマとなっており、産業的な事柄にも触れてほしいと考えています。
第7話 (全17枚) 「フェリーのりんご」	野原の道にリンゴ並木を作ろうとする、キツネのお話です。今回のワーク中、もっとも長尺な内容で、ひとつのストーリーを維持してゆく力が求められます。「時間」や「歴史」というのは、障害を持つ子どもにとって、とても難しい概念です。日常生活の個人的経験だけでは、得ることのできない、時間や空間の広がりや、物語というファンタジーの中で、少しでも、培ってもらえればと思います。
第8話 (全11枚) 「北海岸行きの電車」	山あいの野原から、賑やかな街を通り、そして海岸へと向かって行く電車の物語です。その電車の車掌である若者のモノローグ(独白)という形で、ストーリーは語られていきます。このような形式は、教科書などでもあまり採られていないので、難度の高い読み物だと思います。地形や産業の推移も、テーマのひとつですが、多くの子どもが多大な関心を寄せる「鉄道」が、この物語の主人公です。